

新川地区緑化推進協議会

地域のシンボル「新川さくら並木」。
755本の桜が元気に咲くように
年に数回調査をして見守ります。



私 が思う、
北区 の魅力・好きな場所

趣味で札幌市内の巨樹の調査をしています。北海道大学構内には巨樹が105本もあり、心が安らぎますね。私のお薦めは幹の周りが8mの、日本で一番大きいと思われるハルニレです。秋はイチヨウ並木の黄葉が美しく、散歩すると無我の境地になれます。また、「新川緑地」も好きです。若い頃はランニングで、今はウォーキングで利用しています。

新川地区緑化推進協議会
幹事 布施 鎬次 さん

1939年、清里町生まれ。新川町内会コミュニティガードとして交差点に立ち、子どもたちの交通指導にも当たっている。



桜並木は紅葉も見応えがあると評判。「来年もきれいに咲いてほしい」と、エゾヤマザクラに触れる布施さん。後継者も募集しています

新川の堤防沿いに全長7.5キロ^(※)にわたって続いている「新川さくら並木」。毎年春には、エゾヤマザクラやソメイヨシノ、八重咲きの桜が次から次へと満開の花のりを繰り広げて、訪れる人々を楽しませてくれます。

この755本の桜を保護するために地道な活動を続けているのが、新川地区緑化推進協議会の幹事である布施鎬次さんです。2006年から桜の被害調査をほぼ一人で担う「守り人」は、「桜の木は繊細で病気などの被害に弱いんですよ」と語ります。

「新川さくら並木」は、地域住民の「新川にシンボルを作ろう」という思いが結実したものです。地域の全町内会が参加して緑化推進協議会を立ち上げ、自分たちの手で植樹して2000年に完成しました。北海道庁林務部の職員として長年森を育てる仕事に従事してきた布施さんは、退職後に転居した新川でこの並木と出合います。「桜並木を見て歩いていたら、いろいろな病気を見つけてしまっ」。協議会に連絡したのが縁で付き合いが生まれ、被害調査を依頼されるようになったそう。

調査は年に数回、春から秋にかけて行います。コブ病や胴枯病、エゾヤチネズミや虫による食害。どの木がどんな被害を受けているか1本1本チェックしてデータを作成し、並木の維持管理を担う北区土木センターに報告。連携しながら保護活動に当たります。病気の枝を取り除いたり、害虫や害獣を駆除することも。「弱々しかった木が元氣を取り戻してくれた時や、桜が満開になった瞬間は、もう、なんとも言えないですね」と、うれしそうにほほ笑みます。布施さんが見守る桜は来年もまた、かれんな花で人々を幸せにしてくれるに違いありません。

(※)手稲区側も合わせると10.5キロ。

新川地区緑化推進協議会
北区新川1条4丁目4-26
TEL.011-762-2604
(新川まちづくりセンター内)